

# じぶんでいう新聞

116号

発行日 平成十六年十一月一日  
発行者 仙台市若林区荒町一三〇  
幸五郎まちづくり研究所  
電話〇二一(六六)三三三  
一部十円 年金費一千元

## 幸五郎

二人の女を泣かせた  
近所の只米屋さんで「十月  
末で米屋を廃業します」とい  
う張り紙を見つけた。私の小  
学校の同級生、米屋の吉夫ち  
ゃんが亡くなってから5年にな  
る。商店街の空洞化が言わ  
れている昨今、また一軒の火  
が消えるのかとときんと胸  
に響いた。張り紙をよく見る  
と「シヤッターをおろさない  
でお茶のみの場所にする」と  
いう事が書いてあったので、こ  
れはいい」と幸五郎もとり  
あえずホットした。奥さんの  
光子さんは美人で、手先が器  
用で、荒町の七夕では何度も  
金賞になり、花いっぱい運動  
では先頭にたつて協力しても  
らいました。お店の前にも、  
お花がたくさんかざってあり  
ます。5年前、「主人を亡く  
してからは、自転車で重いお  
米を配達してきましたが、な  
にしる一人では大変」という事  
で今回米屋をやめることにな  
ったのです。明治、大正、昭和  
平成と九十年の歴史に自分で  
決断するのは大変だった事で  
しよつ。苦勞様でした。さ  
てここから幸五郎の出番で  
ある。店はやめるがシヤッター  
をオロサナイというのは二  
ヶ入価値もあり異色の出来  
事である。定年でやめるサラ  
リーマンには、周囲でいろいろ  
表彰があったり退職金もで  
る。一商人が店を閉めるのに  
何にも無いのはおかしいと思  
い、お店最後のロケットマン二

## 幸五郎新聞

5000枚くばる

ーをしてあげよう」とひそかに  
企画、顕彰してあげる事に  
した。文章は私がつくり、味噌  
やの理事長と「日東写真の庄司  
社長が連名でサインをしても  
らった。河北のM記者に取材  
をお願いした。二十九日の朝  
「おくさん。じつじつ事をし  
ます」といった。派手な車のキ  
ライな奥さんによめて「言わ  
れそうだったが、受けてもら  
いました。九時半近所の人の  
集まったところで表彰式しま  
した。奥さんは泣いていまし  
た。是非この表彰状、仏壇に  
あげて下さい」と頼みました。  
二日後、夕刊に写真入りでド  
ーンと載りました。記事を見  
て知人、お得意さんからいっ  
ぱい電話が来たそうです。翌  
日加美町からスーパーをやっ  
ている知人の奥さんが訪ねて  
来ました。この話のいきさつ  
を話してあげました。彼女が  
私の行動に感激して、目が少  
しうるんでくるのを見つけた  
した。そしてその涙が止らな  
くなって来ました。私はいい  
ました。遠慮しないで泣いて  
泣いて」と。彼女ハンカチをと  
り出して「フーッ泣いてしま  
いました。彼女は人の痛みが  
わかるやさしいやさしい心の  
持ち主でした。二週間で  
女の一人を泣かせてしまい  
ました。街は感動の舞台、皆  
さんが俳優です。

年末になると、年賀状印刷  
の仕事が始まります。これで  
稼がないと店も年が越せませ  
ん。もう三十年近く続けてい  
ます。どんな見本帳にするか  
幸五郎の腕の見せどころです。  
仙台の風景を取り入れたの  
は、私の店が最初です。今年  
は絵手紙風のもの、幸五郎の  
直筆の筆文字年賀、仙台にフ  
ロ野球出現など、いろいろ話  
題性をもちこんだつもりです。  
このチラシと幸五郎新聞をセ  
ットして十一月一日から、朝  
5時に起きて、自転車の前籠  
につけてポストに入れていま  
す。何しろ暗いのでポストが  
何処にあるのかわかりません  
ので、あかるくなってから始  
めます。まだ、寝静まってい  
ます。何となくドロボーにな  
った気分で、何処にポストが  
あるのかな」とウロウロしな  
がらポストに入れていきます。  
一朝で約300枚位ですから  
5000枚全部配ると約半ヶ  
月かかります。配りきれない  
ときは日中も配ります。朝早  
いのですが突然家の人とバッ  
タリ出合ったりしますが、こ  
んなときは「フフフしない  
おはようございます、」と  
面白いから読んで下さい」と  
挨拶をします。「くへるつと  
まです」とか「これおもしろ  
くんでいます」といわれる  
じぶんがありホットします。先  
日天気の良い日、石垣町付近

を配っていたら、縁側でお茶  
のみをしていた老婦人お二人  
と出会いお茶を「馳走になり  
ました。』の町では孫の航之  
助の通っている保育園のこと  
もたちが散歩しているのに出  
会ったりします。「じつじつ」  
の時期、5000軒セッセと歩  
きまわります。地域の事情が  
わかり大変勉強になります。  
いいことばかりではありません  
。夕方店番をしていたら、  
電話がきました。「なんだテ  
メー。なんでチラシ入れたん  
だあ。ポストの口にチラシ  
入れるとかいっているのよめ  
ねのか。すぐあやまりにこ  
い」という電話でした。実はそ  
の日の朝Nさんと「何時も  
年賀状を頼んでくれるお客  
さんに見本を届けたついでに  
隣の家のポストに入れたので  
す。覚えていたので直ぐ謝り  
に行きました。とても怖かつ  
たのですが非は非です。今回  
も頭をさげて何とか引き下  
がって来ました。丁度いいと  
いう事でNさんに寄りまして  
ら丁度注文したいと思ってお  
られ、家の中に招じられ原稿  
をいただきました。『ヨイト  
床の間を見たら、先月区民ま  
つりで似顔絵を色紙に書いて  
幸五郎が一言書いてあげた方  
でした。話を続けたら三月に  
行った、私の生前葬にもご夫  
妻でいられたといつ。お名前  
と顔が一致していなかったの  
であらためてじっくり覚えま  
すとお茶を一杯いただきました  
した。』のチラシにいられた  
り、出会いがあったり人生  
様々、チラシ配りは大変です  
が新聞はチャントまじめに書  
いていければ何処かできっと私

の事を支持していただく方が  
ふえているようです。マシメ  
にやれといふ直接声はきこえ  
ては来ませんが、虚心坦懐生  
きてまいります。テレビに出  
たり、新聞に出たり顔が売れ  
ているだけに「批判神妙に承  
ります。」

二十年前の小学生、

店に来た

十一月八日。店にいたら三  
十才ぐらいの目のクリクリし  
たお兄さんが訪ねてきた。  
「誰だかわかる？」といキナ  
リ云いでしたが、もう思い出  
せなくなった。七番丁に住ん  
でいた、丁君でした。今はオ  
ランダにてキャンソンの会社  
に在るといつ。休暇で仙台に  
帰って来て、オンチャンが忘れ  
られずお店にやってくるので  
ある。オンチャンの元気なの  
にはビックリしてみた。い  
ろいろ話しているうちに私も  
幼顔を思い出してきた。私は  
商業事情視察でヨーロッパに  
行ったことがあるのでその体  
験をもとにオランダの商業事  
情について丁君に聞いてみた。  
オランダも他のヨーロッパの  
国々と同じように休日にはき  
つかりと商店は休むそうです。  
二十四時間コンビニ、スーパー、  
自販機はない。近所のお店を  
大切にして近隣のコミュニティ  
ーはすいぶんいいところとい  
ました。日本の商業界は電気を  
無駄づかいしてそんなに  
売れもしないのじゃないかと  
と電気を付けて二十四時間管  
業している。Eのいふへんまで  
電気のノードを引っ張って飲  
料水の自販機をおいてある。  
余談だが、自販機置いてノード

いとカラー刷り企画書持って  
来た。1ヶ月の電気代が六千  
円で荒利益が八千円電気と場  
所かけてたった二千円ではこ  
どもにすかいらにもならない  
こんな時代だれがした。短絡  
的ですがアメリカがわるい。  
日本は戦争に負けて、日本の  
商業はアメリカに学ぶと言わ  
れつつけて来た。アメリカを  
見れば十年後の日本が見え  
ると猫も杓子もアメリカにな  
らってしまった。強いものに弱  
いものが負ける。アングロサ  
クソン風の人生の生き方まで、  
戦争に負けてアメリカからそ  
の風潮が日本に入りこんでき  
た。その結果が今の日本商業  
事情である。むしろヨーロッ  
パのやり方を学んで、もっと  
スローに生きるべきである。  
江戸時代二百年をふりかえっ  
て見て下さい。低成長の中で  
平和に暮らし俳句、歌舞伎、  
落語、浮世絵と文化が爛熟し  
たではありませんか。明治維  
新と太平洋戦争で日本は間違  
った方向に舵を切ってしまった  
たのであると幸五郎は荒町小  
の後輩の話しを聞きながら  
考えるのである。

### 人生最後の同期会

私は今から満六十年前に米  
ヶ袋に有る県工に入学しまし  
た。太平洋戦争の末期のほど  
い時代でした。仙台空襲に学  
校が焼かれて敗戦。学校、校  
舎、教科書もない青天井の県  
工でした。それから半世紀以  
上。同級生のKから「同期会

を企画してくれ」と電話が来  
た。もう七十歳以上で国分町  
に集まって、一杯やる歳でも

なくなったので、一風変わっ  
た同期会を企画しました。聞  
くところによるとK君の奥さ  
んはもうすでに痴呆になって  
しまったといふ。そのイベント  
を得て飲み食いの同期会でな  
くし病気をテーマにした勉強  
会にしようと考えました。十  
月の末、私の店の隣のレスト  
ランに各科の代表四人が集ま  
た。この案を云ったら皆、賛  
成してくれました。早速、元  
市立病院の精神科の浅野先生  
に講演をお願いしたところ、  
心よく引き受けてくれました  
た。(演題 痴呆症の防止)十  
二月十三日午後から仙台ホ  
テルで先生の講演と同級生代  
表のシンポジウムを開く事  
になりました。題して七十歳  
からが本番の人生。こんな風  
変わりな同期会はあまり聞  
いた事は無いでしょう。それ  
でも中々集まってくれないで  
しょうから、同期会のキャッチ  
フレーズ人生最後の同期会と  
書きました。皆んなビックリ  
して来てくれるでしょうか。  
皆さんあつまりやすいように  
駅前の仙台ホテル、会費も二  
千円。ケーキとソフトで、  
残りの人生をどう生きるか  
考えて見ようといふ同期会を  
企画しました。それで、もの  
たりない老人は終了後、泉ヶ  
丘のやまぼつし温泉に連れて  
行く事になっています。どん  
な会でもあつまりやすいよう  
楽しく、面白く、そして安く  
が会合の原則です。